第 2018-12 号

恵みと真理のニュース

2018 年 3 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

帰ってきたどら息子を暖かく迎えてくださり、苦難と逆境が有益になるようにしてくださる父なる神様の愛と恵に感謝ささげます

神様は私が経験した酷い試練を通して自我を徹底的に壊してくださり、悔い改めらせました。私を練達させて内側を健康して変化してくださり、苦難が有益になるように恵みを体験させてくださいます。
私は高校２年生の時、友達をついて金曜祈り会に初めて参席して信仰生活をするようになりました。当会長の牧師の恵み溢れる御言葉を滋養分で信仰が育てられ軍隊で除隊するまで充実に信仰生活をしました。しかし、社会生活をしながらだんだん信仰生活をおろそかにして結局は中身もない信者になりました。そんな私の姿が気の毒と思ってよい信仰になるように聖霊様がさまざまな方法で責めて人生に警告を与えてくださったが、私はあげく神様の懐を離れ堕落の川を渡ってしまいました。
金融危機でしていた事業も辞めて、何もしないことがお金を捨てるのだいう話が話題になった９年前、私は逆にプサンのアパート新築工場の食堂を運営権を取って初めて事業をしました。その後４年間カンルンで骨材採取業とガース管路工事の骨材納品業に続いて最後にはソウルでサラ金まで手を出して４度も事業をしたものの全て失敗してしまいました。そうするうちに全ての財産を失って家族たちに敵になりました。
苦しくなるとお酒で慰めて心と体がぼろぼろになりました。寝る前ことに朝目を覚まさないようにと祈るほどつらくて苦しい日々を送りました。利子を返済日が来ると血が渇くなるようで暴力団のような貸付業者に耐えない苦難を経験しました。TVのドラマや映画で見た場面が私の現実になりました。
そうするうちにある日、私をこのように作った者たちに対する恨みと悔しい思いではなくこのような考えをするようになりました。“あ！神様が本当に私を愛しておられて私を再び呼ばれている。”と思うと涙から滝のように涙が出て口からは“父なる神様に両手を上げて主の前に進みます。”と賛美が出ました。
今まで私は周りの人々に“私が以前の信仰の状態に戻るより地球が滅亡するのがもっと早いという話をするほど心が硬いでした。“ 一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかるようになり、 神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら、 その後に堕落した者の場合には、再び悔い改めに立ち帰らせることはできません。神の子を自分の手で改めて十字架につけ、侮辱する者だからです。”（ヘブライ人への手紙６：４～６）という御言葉が私において話す御言葉でした。そんな私を“どら息子と父親の比喩のように神様は限りない愛で迎えてくださり、父の暖かい懐で抱いてくださいました。恵みで私のような罪びとを再び受け入れてくださいました。最近は”神様が私を救ってくださった。“と心から叫ぶと心霊に喜びがあふれるのを感じます。
楽しんでいた酒と世俗的な事を一気にやめて２０年ぶりに教会に来て水曜礼拝に参席しました。その日、当会長の牧師が出エジプトについて説教してくださいましたが、その説教を聴きながら気分が不思議で心が新しく恵みが溢れたか言葉で表現できないほどの恍惚感を感じました。
 現実は 厳しくソウルのミョンモク同で半地下の部屋を借りてグリ聖殿で教席を登録をして熱心に礼拝に参席しました。生計のため夜には代理運伝をして昼には車で配達をしたので体と心は疲れましたが、神様の御言葉を聴き魂は健康に過ごしました。ヨセフのように何でも誠実にしました。そのように４年を過ごすうちに母親まで亡くなりました。苦しくて厳しい現実で私は涙を流しながら神様に切に助けを求めながら祈りました。神様は私を知らず知らず試して私の心を練達しました。
　再び教会に出て信仰生活をした後２年までは失った家と財産を早く取り戻そうとする強迫症がありました。そうするうちに、礼拝を捧げる中で、説教と聖霊に満たされこのような考えがしました。“私もこれから自分だけの人生ではなく神様と隣人のため生きよう。”その瞬間、聖霊様が私の心に神霊な喜びで満たしてくださいました。その事があって内面が日々、新たにされるのを肌で感じるようになりました。焦る心に余裕が出来て神様が助けてくださるので時になると私の希望が必ず成し遂げられるという確信が出来ました。
私の生活が以前より温柔な性格になり、ほかの人々を尊重するようになり、隣人を自分のように愛するように祈る者に変えました。万物を見る時も平気に見なくてその中で神様の知恵と権能と摂理を発見するようになります。何よりも救いを受けたのを考えるのどんな状況と現実でも神様に感謝するようになりました。そして、神様の栄光が全ての判断基準になりました。福音伝道のためには私の命も尊く思わないと念を押しました。御言葉の恵みと聖霊の働きが私を変化させました。
５年の間神様が私の心臓を見守ってくださり、肺まで試すその練達の火を通過したにもかかわらず、まだ、私には直す不純物があって マシのように弱い存在であるのを多く感じ悲しく痛みます。私は神様にいつも共におられるのを感じ神様に聞く習慣が出来ました。時間が過ぎても祈りして思ったとおりにならなくて“神様！私の祈りが福だけ偏って過剰が欲を願っていますか。私の信仰が完全ではないからですか。と聞きます。すると聖霊様は“違う。もっと忍耐しなさい。と慰めと励ましてくださいました。。
そして、主日礼拝で当会長の牧師が私たちがどんな時代に生きているか分別するように教えてくださいました。２６００年の前、神様は 王ネブカドネツァルの夢を通して啓示してダニエルが聖霊に感動され聖書に記録されたとおりイスラエルの建国過程など今まで進行して来た全ての世界史の展開過程とこれから残った事に対して詳しく声明してくださいました。
私はその御言葉を聴いて神様の真実さと全能になることを賛美しながら神様の時を待ち、もっと忍耐するようになりました。聖霊様がまた“. 愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。”（ペトロの手紙３：８）御言葉が思い出すようにしてくださいました。
重ねた事業の失敗で完全に滅んでしまって神様の懐に戻ってきて５年になる今年、考えもなかったところで喜び話が聞いてきました。ついに神様が環境の扉を開いたのです。競売で渡されなければならなかったアパートと商店が元々は再開発の区域だったし、その推進過程で建物の 登記が抹消される行政ミスがあったことが明らかになりました。ミスだったか錯誤だったか法院の過ちを修正して収拾する過程で私の大きい債務が一度に解決する驚くな事が起きました。私は最初、淡々として時間が過ぎた後、 万感が交差してどっと涙を流しました。ハレルヤ！神様に感謝しまた感謝する祈りを捧げました。
 私は聖徒が神様の意識を持って生活するなら、神様の方に立て考えて話して行動すると、神様が責任してくださり艱難が福になり苦難が有益になるようにしてくださる牧師の説教を耳にたこができるように聴きました。それで、その御言葉を従順するため力を尽くしました。そんな私を神様に聖霊で満たされるように私と共にしてくださいました。神様の臨在を感じて背筋が寒くなり髪の毛が立つ体験を何度もしました。
まだ、私にはさまざまな祈り課題があって大きくて小さい目標があります。しかし、私が祈って自分が願うとおり成し遂げられなくてもよいです。なぜなら私は王のような祭祀長であり、今は慈しみを得た者になったからです。この事と比較するのはこの世にはないのを確実にないのを悟ったからです。
私は一番小さい者だといつも考えます。神様の前で謙遜なパウロの告白と違って私は本当にそうです。今が５０歳なのにまだ結婚もしなかったし、集めておいた財産もないし、職業と外見と背景どちらも誇るのがないです。それにしても私は話せられない幸せです。“私より幸せな人がいるなら出てきなさい。と叫びます。この限りない喜びと自尊感はどこできたのか。神様は知っておられます。神様に感謝します。

［信仰コラム］　御言葉農事

＂この譬はこういう意味である。種は神の言である。道ばたに落ちたのは、聞いたのち．．．＂
（ルカによる福音書8:11～15）

本文に記録された＇種蒔く比喩＇はイエス様の説明を通じて＇御言葉農事＇に関する教訓だということが分かります。御言葉農事を良くするためには私達が必ず知って実践すべきのことを三つに分けて調べてみましょう。
まず、私達が知るべきことは種が植えられなかったり、良く生じない土壌の状態に関することです。この土壌の状態は私達の心の状態を意味します。
第一は、道端のように堅くなった土壌の状態です。頑固で頑なな心を意味します。心がこのようになる理由は傲慢のためです。その心が沃土になるためにはからすきですき返し、鍬で叩いて壊さなければなりません。からすきと鍬の役割をすることが各人別に異なります。大体には疾病、破産、失職、裏切られることがからすきと鍬の役割をします。生活に体する空しさや究極的な問題に体する苦悩がそのような役割をする場合もあります。感謝の欠乏も心が頑固で頑なになる理由に属します。イエス様が説明なさる時、道端に蒔かれた種は鳥に食べられてしまうと言われたが、その鳥はサタンを指すのだと言われました。
第二は、岩の上に少し土が覆われている土壌の状態です。このような状態の心を持った人は御言葉を聞いて熱情的で積極的な反応を表しますが、長く続かず枯れてしまいます。イエス様が＂岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受けいれるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試錬の時が来ると、信仰を捨てる人たちのことである。＂と言われました。土が薄く覆われた岩のような状態の心に御言葉が根付いて生じた信仰は逼迫や誘惑、艱難を克服することができません。
第三は、茨が覆われた土壌の状態です。茨の中に落ちた種は土が豊かなので根付きますが、茨と共に生じ、生気を遮るので結実をすることはできません。イエス様が＂いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快楽にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。＂と言われました。この世の心配、財物に体するどん欲、肉親の一楽が信仰を消滅させます。道端に落ちた種は芽ぐむこともできずに鳥に食べられてしまいます。岩の上の土に落ちた種は深く根付くことができずに枯れてしまいます。茨に落ちた種は惰弱に生じて実を結ぶことができません。
次に、私達が知るべきことは多用な種類の御言葉の種があるという事実です。
聖書には神様が言われた数多くの命令があります。私達の幸福のために与えてくださった命令です。大体にその全ての命令には約束が付加されています。魂が恵まれるように物事が恵まれて健やかになるようにする約束、神様の導きと助けに体する約束、聖霊の恵みと実に対する約束、イエス様の再臨と聖徒達の復活、携挙に対する約束、主のことに励んで献身した聖徒が受ける称賛と賞、冠に対する約束、万事を益となるようにしてくださるという約束、天国に対する約束があります。聖書を多く読んでどこにある御言葉があるかを良く知ることに止まってはいけません。その御言葉を信じるべきです。命令の御言葉は従わなければならなく、約束の御言葉は信じるべきです。
最後に、私達が知って実践すべきのことは植えた後には、培うことを良くするのです。
一、信仰の言葉、所望の言葉、愛の言葉をして感謝する言葉をするように励まなければなりません。これはまるで肥料のようなことであり、十分に水を供給するのと同じことです。
二、恨みと不評の言葉を慎むように励むべきです。これはまるで雑草と害虫が生じないようにするのと違いありません。
三、忍耐しなければなりません。謙遜な姿勢で神様の御言葉を順々に受け入れて信仰と従いの態度として最後まで忍耐すると必ず言約の成就を見ます。
心が沃土になるようにすることは私達がすべきことです。種は神様が多用で豊かに準備してくださり、聖書に入れてくださいました。皆さんは、御言葉農事を熱心に行い、豊かな収穫の楽しみを享受するように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ペテロの積極的性格と失言による教訓

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

ペテロは、性質が急にしました。言葉と行動が早かったです。そのような性質は、欠点にもなって長点もなりました。自分の意思を積極的に示したので、ペテロは主の賞賛を受けてまた非難も受けました。それに関連した事件記録を通じて、私たちは霊的な教訓の多く得ることができます。その中のいくつかの事件を見てみましょう。

第一は、変化の山であった事件です。

イエスがペテロとヤコブとヨハネを連れて、高い山に登っていました。イエスは祈り始めました。弟子たち疲れて居眠り後目を覚ましてすばらしい光景を見ました。イエスの顔が太陽のように光って、その服が白くなって輝きが出るのに世の中で洗濯する人がそのように白くすることができないほどひどく白くなりました。これらのイエスの姿を見て当惑していた弟子たちは、モーセとエリヤがイエスとの会話を交わしている姿を見ました。この光景を見たペテロ、ヤコブ、ヨハネはあまりにも不思議で驚くべき光景に圧倒されて恍惚でした。
性質が急で、積極的なペテロがイエスに自分の考えを申し上げました。「**ペテロ は イエス にむかって 言った， 「主よ， わたしたちが ここにいるのは， すばらしいことです． もし， おさしつかえなければ， わたしはここに 小屋を 三つ 建てましょう． 一つはあなたのために， 一つは モ ― セ のために， 一つは エリヤ のために 」**ペテロが失言したという事実が次の場面に出ます。ペテロが言ったとき、突然光の雲が、それら覆った雲の中で音がするのを「**彼がまだ 話し 終えないうちに， たちまち， 輝く 雲が 彼らをおおい， そして 雲の 中から 聲がした， 「これはわたしの 愛する 子， わたしの 心にかなう 者である． これに 聞け 」**」としました。その音が、する後に、弟子たちが見て、雲は消え、モーセとエリヤも消えてただイエス様だけ見えました。イエスは弟子たちを連れて山から降りてきました。そして山の下に鬼に抑圧されて病気の子供をいやしました。ペテロの言葉の失言である理由を説明します。
第一、ペテロは主の小屋とモーセの小屋とエリヤの小屋をそれぞれ建てるようにしました。彼は主とモーセとエリヤを対等な位置に置こうとしました。これは重大な誤りです。
神がモーセを通して律法を与えました。しかし、人が律法を守って救いを得るようなためのものではありません。律法は、人が自分の無力さを悟って、神様が備えられた救い主への進むようにします。イエス・キリストを信じて救われるように導いてくれます。律法は、イエス・キリストを信じて救われた人には、救われた人らしく生きる道を案内し、主を喜ばれる道を教えてくれるので善で有益なことです。
エリヤは預言の言葉を伝えた預言者たちの中に代表的な人物です。それともイエスと預言者たちを対等に考えてはなりません。聖書の預言は、キリストにあって成就されて完成します。

イエスご自身が言うのを「 **あなたがたは， 聖書の 中に 永遠の 命があると 思って 調べているが， この 聖書は， わたしについてあかしをするものである」（ヨハネ 5:39）**しました。あなたは、聖書の律法で、イエス・キリストを見ることができており、聖書の預言の中で、イエス・キリストを見ることができなければなりません。
第二に、神秘的な体験をしたペテロが「私達がここにいるのがすばらしいことです」と言って、ここに滞在したいとき、神様が突然光りの雲で覆いにくく、「あなたがたは、私の言葉を聞け。」としました。そすると後イエスは弟子たちと山を降りて行こうと言われました。神様が私たちに神秘的で霊的な体験を与えられるわけでは私たちにとって、この邪悪な世では、多くの問題、この世で引き受けた義務と責任をよく行うことができるようにすることです。

第二には、イエスが十字架を付けられしようとしてエルサレムに上って行かれる時にあった事件です。

イエスが弟子たちに、自分がエルサレムに上って長老たちと、祭司長たちや律法学者たちに多くの苦しみを受け、殺され、第三日によみがえることを言われました。その瞬間、ペテロがイエスを握り、「主よ、そんなことはありません。決してこのようなことが主に起こらないでしょう。」と抗議して引き止めました。ペテロは急な行動なので失言をしました。この事実は、次に展開されている場面を通じて明らかになりました。イエス断固として強力な態度で「サタンよ、私の後ろに退け。あなたは私をつまずくする者であるあなたは神のことを考えせず、かえって人のことを考えている者だ。そして弟子たちに、**「だれでもわたしについてきたいと 思うなら， 自分を 捨て， 自分の 十字架を 負うて， わたしに 従ってきなさい」**としました。この言葉は、イエスに従うしたいすべての人に向けた言葉です。ここで重要なガイドラインが　三つあります。
第一、自分を否定する必要があります。自分を否定すると、すべての仕事を自分中心的に理解して判断することを拒否して、神様を中心に理解して判断します。
第二に、自分の十字架を負わなければなりません。
イエス・キリストが十字架を負うことは、人間の罪を贖いするために付けられた唯一の事件です。一方、クリスチャンは各自が負わなければならない十字架があります。私たちが負うべき十字架はイエス・キリストに仕え愛し、述べ伝えるので経験する苦痛、損失、犠牲、迫害を意味します。これらの　十字架は、聖なる喜びと希望の中で負わなければならない十字架です。
第三に、イエス・キリストに従うべきです。信仰生活している途中に試験に入って後に退けてしまう人がいます。このような人は、自分が主イエス・キリストを伴う人がなかったことを自ら証明しています。人を見て人を従っています。だから失望して落胆します。試験に落ちて後に退けます。イエス・キリストだけ見て従ってください。
自分を否定して、自分の十字架を背負って、主に従うこれらの三つはまるで三角形と同じで異なる辺と角を持つが分離されることができない関連があります。ところで、私たちは、これを覚悟して決断しても実践するにことは、力不足です。したがって、私たちの弱さを助けてくださる聖霊を頼りにして助けを求めてください

第三には、、ゲツセマネへの行く道とカヤパの庭であった事件です。

イエスは 3 年半の間の公的活動の末、エルサレムに上っていました。十字架につけられ死なれて万民の罪を贖うためです。弟子たちと一緒に夕食の時間をお持ちの後、イエスは祈るためにゲッセマネの園に行かれました。その時、イエスは弟子たちに、「あなたのすべてが、今夜に私を裏切るだろう。」と言われました。ペテロは、「皆が主を捨てでも、私はいつでも捨てません」と力強く語りました。するとイエスはペテロに言われ、「私は本当にあなたに言う。今夜の鶏鳴く前に、あなたは三度わたしを否認するだろう。」としました。ペテロは、「私は主と共に死ぬとしても、主を否定しません。」と、主の予告を強く否定しました
イエスがゲッセマネの園で祈りを終えた後、群れがイエスを逮捕しに来ました。弟子たちは、イエスがどのような緊急な対処をすることを期待しましたが、イエスは素直に捕縛なりました。すると弟子たちは恐怖を落ち込みイエスを捨てて逃げてしまいました。そんな中、ペテロとヨハネは行きを返し、イエスをついていきました。群れがイエスをアンナスのところへ連れて行ったが疑いを見つけられないので、大祭司カヤパのところに送っていました。ペテロもそこに移動しました
ペテロが人々と一緒に木炭の火を晒しているときにドア守る種がペテロに近づいて「あなたも、ナザレのイエスと一緒にいたでしょう」と言ったら、ペテロが人々の前で「私ではない。あなたが言っているのを分からない。」と答えました。そして、正門にいくうちに、他の種が言った、〝この人は、イエスと一緒にいました。」ペテロが誓い再び否定しました。しばらくそばに立っている者が近づいてきて、ペテロに言った、「あなたも彼らに属している者だ。あなたの言葉遣いを聞いてみると確実である。」ペテロが呪いで誓いを「私はその人を知らない。」と言うと、すぐに鶏が泣きました
テロは、「今日の鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを否認するだろう。」と言われた主の言葉が思い出されて外に出て激しく泣きました。たとえペテロがイエスを否定する罪を犯したが、意図的なものはなかった。イエスを愛する心は変わらないが、恐怖を克服できず卑劣な行動をしてしまいました

ペテロの性急な言動により、主がペテロに言われた言葉で、私たちは貴重な教えを得ます。そして、「神は、私たちの不足と欠点よりも、神を愛する心に、もより重点を置いて助けてくださいます。間違いや失敗を恐れずに、神様を頼って、積極的な姿勢で行動すれば間違いや失敗さえも学びと発展の土台になるようにしてくださいます。神は私たちの中心を見てあわれんで助けてくださいます」という包括的なメッセージを得るのです。このすべてをあなたの信仰に栄養分になって下さい。